

令和 4 年 3 月 4 日
(2022 年)

(仮称) SVH千里丘新築工事に係る環境影響評価
事後調査報告書(工事中)(令和2年度~3年度版)の概要

環境部環境政策室

1 内容

令和 3 年(2021 年)7 月に(仮称)SVH千里丘新築工事に係る工事が完了したことにより、事後調査計画書(令和 2 年(2020 年)8 月)に基づいて、工事期間である令和 2 年(2020 年)12 月~令和 3 年(2021 年)7 月に事業者が実施した事後調査の結果と、評価書記載の予測・評価結果との検証を行うとともに、事業者が示した環境保全措置の実施状況をとりまとめている。

本報告書は、本市環境まちづくり影響評価条例の規定により、本市へ提出することとなっている。

2 受理日

令和 4 年(2022 年)3 月 1 日(火)

3 事業者

株式会社ビバホーム

4 報告の概要と所見

(1) 大気汚染

工事中の二酸化窒素及び浮遊粒子状物質については、建設機械及び工事用車両の種類、稼働台数・時間を把握することにより、排出量を算出した。

工事期間中、長雨の影響で土砂の崩落や残土重量増加が発生し、また工事期間が想定より短縮されたこと、コロナ禍のため相乗り等を自粛したことなどから、建設機械及び工事用車両のうちダンプ、生コン車、高所作業車、通勤用車両などの稼働台数が、評価書での想定より多くなった。そのため、年平均値については二酸化窒素、浮遊粒子状物質ともに、評価書の予測結果を若干上回った。(1 時間値については予測結果以下)

しかし、1 日当たりの工事時間が評価書の想定より短かったことなどから、その増加分は二酸化窒素で 0.001ppm、浮遊粒子状物質で 0.001 mg/m³である。また実際の工事の際には、排出ガス対策型の機種の使用やアイドリングストップなどの対策を行い、発生する大気汚染物質を可能な限り低減したことから、著しい問題はなかったものとする。

(2) 騒音・振動

工事中の建設機械の稼働による騒音・振動の測定結果は、いずれも評価書の予測結果を下回っていたことから、著しい影響はなかったと考える。工事用車両の走行による騒音は評価書の予測結果と同程度であり、振動はやや上昇したものの振動規制法の限度値を十分下回っていたことから、著しい影響はなかったと考える。

(3) 環境保全措置の実施状況

工事の実施もしくは施設の供用にあたっての環境保全措置について、令和 3 年 7 月末時点の実施状況を示している。

本市は、環境保全措置の実施内容について、調査結果をもとに検証し、その履行状況を確認している。